

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さんてらすなの花		
○保護者評価実施期間	R7年1月15日		R7年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年1月15日		R7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・作業療法士、理学療法士、保育士といった他職種での連携を行い、多面的に療育を行う事が出来る	・SST、感覚統合療法、スヌーズレン、応用行動分析の視点から支援している ・PECSを取り入れている	・5領域の支援に加え、趣味活動や休息活動等の人生が充実するために重要な要素を活動プログラムに盛り込み、来所する事が楽しくなるように取り組んでいる
2	・利用児童と職員が対等に過ごしていける様に、施設のルールや環境、活動について意見を出し合っている。活動に偏りがないう要素を変えていくことや児童企画の活動を取り入れていくことに努めている。	・利用者の皆様に長期休みの過ごし方を中心にとどのような過ごし方をしたいか聴取し、可能な内容から実際の活動計画に盛り込む様にしている。 ・施設の整備やルールについて、職員が一方的に決定するのではなく、案として利用児の皆様に提案し、合意を得られた所から変更する様にしている。	・年齢や興味関心に応じた活動を取り組めるように、全体での動きを必要とする活動とは別に、高学年チームでの取り組みをする等して、各自のデマンドにピントが合うようにする。
3	・支援が必要なことがらについて、表面上で見えている行動や言動、それに起因した結果のみを評価し支援するのではなく、その行動や言動に結びついた原因(先行事象)があるのではないかという視点にたち、根本的な支援を行う事で、利用児童様も自分の個性や向上したい点に気づいていける様になるべく温かく支援をしている。	・応用行動分析をベースとした支援を行っている。	・多面的に支援していく為に必要な視点や方法を、関わる人が共有しやすいように、まとめるシート(ストラテジーシート)を用いる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設的环境上(2F)、階段を登らないと来所が難しく、受け入れが困難な現状がある。	・現状の施設では構造的に抜本的改善が難しい。リフトを設置する等して車いすやバギー等を持ち上げる装置の存在は理解しているが、設置がコスト的に見ても難しい。	・改善策の検討をまず始めること。出来る代替案などから取り組んでいく。 ・施設自体の移動の検討、実施。
2	・より包括的に支援していく為に、利用児中心の支援を軸としつつも、アセスメントツールを活用していく事がより必要と考える。	・フォーマルなアセスメントツールやプログラムを熟知し活用するための研修参加が不十分。 ・どのようなツールやプログラムを使っていく事が利用児様の利益になるか話し合いの最中であり、決定し実行に至っていない	・アセスメントや検査、支援のテクニック関係の外部研修により積極的に参加できるように、情報共有を行う。 ・現状でも使用していけるツールから使用していき、やりながらの試行錯誤を行う体制を作る。
3	・学習支援は十分ではない ・定員や受け入れ学校が決まっており、受け入れに制限がある。	・明確な学習室という部屋が現在作れていない。 ・学習を施設で行わない児童もいるため、活動をする児童と学習する児童が同じ空間で過ごすことがあり、環境上学習に力を入れることが出来ない。	・静と動の時間を設け、過ごしにメリハリが持てるように環境を調整していく。 ・年度末の意向調査等をもとに受け入れ状況の情報伝達できるようにしていく。